

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0572109445
法人名	ヴォルフアート (株)
事業所名	グループホーム ほおずき
所在地	〒018-4421 秋田県北秋田郡上小阿仁村小沢田字向川原 213-4 (電 話) 0186-77-9005
評価機関名	財団法人秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田市御所野下堤 5 丁目 1 - 1
訪問調査日	平成21年10月29日

【情報提供票より】 (21年10月11日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤5人, 非常勤5人, 常勤換算6.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	23,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		950 円	

(4) 利用者の概要 (10月11日現在)

利用者人数	7 名	男性	2 名	女性	5 名
要介護 1	1名	要介護 2	3名		
要介護 3	2名	要介護 4	1名		
要介護 5	名	要支援 2	名		
年齢	平均 82.8 歳	最低	78 歳	最高	85 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	村立上小阿仁村国保診療所
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは閑静な住宅街に位置し、こじんまりとして周囲の環境に自然に溶け込んでいる。診療所や消防署などの公共機関も近い。ホーム内は天井が高く、明るく開放的で、事務室からは全ての居室を見渡すことができ、利用者を見守りしやすい構造となっている。職員は認知症高齢者の基本的な接し方を習得しており、利用者に穏やかに話しかけたり、利用者の自己決定を尊重するなど利用者本位の対応となる様に努めている。地域との交流も活発に行っており、地域内の行事には出来る限り参加するように努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	介護計画の様式を見直し、本人及び家族の意向を取り入れた新たな介護計画を作成している。また、家族からの意見を積極的に取り入れ接遇改善に活かしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	自己評価が良い刺激となっており、日々の業務の見直しやより良いケアに結びつけるように取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	自治会長、民生委員、役場担当者、家族等が参加する運営推進会議において日々の取り組みを報告し、意見を出して頂きながらサービスの向上に活かす様に努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	意見及び苦情・不満等に関しては、毎月送付する「アドバイスシート」に無記名で記入して頂いている。その他、来所時に直接意見を頂く事もあり、貴重な意見として業務の改善に活かしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	地域住民にも明るく挨拶をするように心掛け、地域の行事や催し物に参加して、利用者が地域住民と交流できるように取り組んでいる。今後もより積極的に関わり、地域に貢献できるような取り組みを期待したい。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームとしての運営理念を掲げ、利用者が地域の中でその人らしく穏やかに過ごせるように取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と全職員が意見を出し合い、共通の目標のもとで新しい理念を構築している。理念は玄関及びホーム内の目に付く所に掲示しており、職員は理念の実践に向け日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事や催し物には出来る限り参加して、利用者が楽しめるようにしている。 地域住民とのふれあいも大切にしており、近くを通る住民には笑顔で挨拶をするように心掛けている。		今後はより積極的に地域との関わりを目指し、地域に貢献できるような取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の結果が良い刺激となっており、日々の業務の振り返りやケアの向上に活かせるように取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、役場担当者、家族等が参加する運営推進会議において日々の取り組みを報告して、意見を出して頂きながら、サービスの向上に努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日々の業務に関して不明な点があればその都度行き来して確認している。また新規の利用者を紹介して頂くなど、随時情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族等に利用料の請求、金銭出納、健康状態等に関する書類を送付しており、2ヵ月に一度、ホームのおたよりを送っている。その他にも必要に応じて随時電話連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見及び苦情・不満等に関してはアドバイスシートを活用しながら随時受付している。その他、面会時に直接意見を頂く事もあり、貴重な意見として伺い業務の改善に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職等により少なからず利用者に影響が出る事は避けられないが、影響が最小限になるように精神的な支援に心掛けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症研修会等の外部研修に積極的に参加して職員の知識及び技術の向上に努めている。参加した職員は毎月の会議において全職員に伝えている。新人の介護職員に対しては管理者が直接指導したり内部研修を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の各事業所と相互に訪問したり、意見交換を行っている。交流をする事により、互いの技術向上及び事業所のサービスの質の向上につながっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	利用者本人が納得した上でサービスを利用できるように、事前に部屋を見学して頂いている。入居後は徐々にホームの生活に馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、自分がもし認知症高齢者だったらどんなケアをして欲しいかを考え、利用者と共に喜びや悲しみを共有しながら生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者と会話しながら本人の意向を把握するように努め、本人の思いを大切にしたいケアが提供できるように努力している。また、意思確認が困難な利用者に関しては利用者本位のケアを提供している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人及び家族の意見を重視し、日々の業務の中で職員間の情報を参考にしながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	新しい様式の計画書に変更し、本人及び家族の意向を大切にしている。計画は3カ月ごとに見直し・評価を行っているが、状態に変化が見られた場合には随時見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	時に家族が提供した食材をもとに食事を提供するなど柔軟な支援に努めている。また、医療機関受診の際は本人の状態に応じて家族が同行できるように対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望により入居前のかかりつけ医を継続し、受診等の便宜を図っている。協力医療機関である診療所の定期受診の他、状態に変化が見られた場合は医師の指示により適切に対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制を強化し、ホーム内での看取りを行う事に関して利用者及び家族、協力病院の医師の同意を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りを損ねるような声掛けは行わない様気を配っている。また、プライバシーの確保を重視するように毎月の会議で再度確認している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしとはどのようなことか、以前の暮らしぶりを本人又は家族に確認している。それを元に日々の暮らしの中で利用者本人の思いを引き出し、それを実現できるように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望や馴染みの郷土食、季節の物を献立に取り入れている。また、利用者本人の経験を活かしながら準備から後片付けまで手伝いをして頂いている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調及び精神状態を考慮しながら入浴に誘っており、湯温も本人の好みに設定している。希望があれば毎日でも入浴が可能な支援体制で臨んでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	昔から家事全般を行っていた利用者には掃除や食事の後始末を続けて頂いたり、山仕事が好きな方とはキノコや山の話をしたり、利用者一人ひとりの生活歴に応じて支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じて散歩や外出を行っている。その他、行事や催し物に合わせて随時外出を楽しめるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	利用者が精神的に安定して過ごせるように、日中は玄関を施錠せずに常に開かれた環境を維持している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、地域住民の協力を得て災害時の避難訓練を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人本部の委託栄養士が献立を作っている。食事の際は個々の食事摂取量を記録している。また、毎月個々の体重に応じて必要な水分量を計算して、それを目標に水分量の確保に取り組んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は利用者にとって適度な明るさでテレビの音量にも配慮している。また、季節の絵を書き換えたりして季節感を感じて頂けるような雰囲気作りをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は、利用者本人の馴染みのある家具等を持参して頂くように説明している。入居後も本人と話をしながら心地よく過ごせるように配慮している。		

※ は、重点項目。